

CKD Regional Report

地域から全国へ、慢性腎臓病対策の取り組み



ふじみ野市保健センター



ふじみ野市

[埼玉県]

埼玉県ふじみ野市では特定健診の結果や診療報酬の情報をもとに10年以上前から市が抱える健康課題として、慢性腎臓病(以下CKD)に対して対策を講じてこられました。CKDが進行すると生命予後やQOLに大きな影響を及ぼすとされています。わが国の透析患者数は現在34万人を超えており、CKDをできるだけ早期に発見し、適切に対応することが必要とされます。ふじみ野市ではどのような取り組みでCKD対策をされているのか、お話を伺いました。

係長 窪田 美保 様

副所長 味戸 千里 様

主査 奥寺 映利子 様

ふじみ野市 こども・元気健康部 ふじみ野市保健センター 健康予防係

Q 現在のふじみ野市が抱える健康課題について教えてください。

窪田さん:平成30年3月に策定したデータヘルス計画(保健事業の実施計画)に基づき、医療費を分析したところ、構成疾病割合が高いものから順に、循環器系の疾患、がん、内分泌系の疾患、筋骨格系の疾患、そして腎疾患という結果でした。腎疾患のうち約8割がCKDに起因する腎不全でした。また上位を占める疾病に含まれている糖尿病や高血圧などが重症化することで腎疾患に繋がる可能性もあります。上記から、腎疾患に取り組むべき課題があると考えました。

Q CKD対策を開始した時期と理由について教えてください。

窪田さん:全国的に特定健診が始まったのが平成20年、現状分析を積み重ねていく過程で、平成22~23年ごろには担当者間では既に腎臓への取り組みが今後の課題

になるのではと話が出ていました。そこで私たちはまず、CKD早期発見を目指し平成23年度から特定健診の項目にクレアチニン値と尿酸値を追加しました。ちょうどそのころ、保健所から地域・職域推進事業の一環として、市町村の保健指導支援を実施するとお聞きしました。そこを足掛かりに、平成23~24年の2カ年にわたり、効果的な保健指導実施支援事業と称して、保健所の協力を得ながら腎臓への取り組みをスタートさせました。

Q CKD対策を開始した具体的な方法について教えてください。

窪田さん:初めは腎専門医に講師を依頼し職員向けの勉強会を開催しました。また診療情報から透析患者さんの実態把握や、健診結果をもとに介入が必要な方へのフォロー方法について事例検討なども行いました。平成24年に保健所のサポートは終了しましたが、翌年からは、これまでの学びをもとに、腎専門医による市民公開講座という形で

市民にCKDの普及啓発を開始しました。また健診結果でCKDが心配される方への受診勧奨や健康相談、腎専門医との個別相談といった事業を立ち上げ、教育・受診勧奨・相談の3本柱を体制として取るようになりました。

Q CKD対策を始めるにあたり、他部署や医療関係者、近隣の市町などに向けてどのような働きかけをされましたか。

味戸さん：令和2年に健診事業は保険・年金課、保健指導は保健センターが役割を担うことになりました。

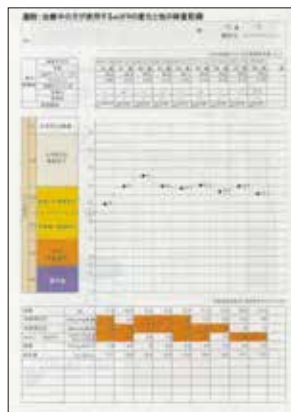
窪田さん：切り離せない業務であるものの、担当する部署が異なると実態が見えにくいなどリスクがあるためコミュニケーションは意識しました。また、先に述べた健診項目の追加にあたっては、連携する東入間医師会が同じであることから、富士見市と三芳町でも同様の対応が必要になりました。そこで、3市町でコミュニケーションを密に行い共通認識を深めました。以前から相談をしています、この件でも情報交換ができ、更に良い関係が続いています。

Q 受診勧奨を行う対象者の選定方法について教えてください。

窪田さん：健診結果を独自のシステム上で管理し、CKDのガイドラインと照らし合わせて各ステージに該当する人数や個人情報把握しています。そこに診療情報からの服薬・受診状況を加え対象者を選定しています。中でも生活習慣病が未治療の方には特に焦点を当てて受診勧奨を行っています。コロナの影響もあり、現在は軽度異常に該当する方から市民講座の案内や受診勧奨などの通知をお送りしています。この通知をステップとして電話や訪問に繋がっています。

● 受診勧奨対象者へのご案内

健診結果の管理シート



● ふじみ野市の受診勧奨対象者選定基準

令和3年実績:特定健診受診者6,000人のうち以下の該当者に受診勧奨を実施

- | | |
|----|---|
| 1. | eGFR45mL/分/1.73m ² 未満 |
| 2. | eGFR45mL/分/1.73m ² 以上かつ尿蛋白2+ |
| 3. | eGFR45mL/分/1.73m ² 以上50mL/分/1.73m ² 未満かつ65歳未満 |
| 4. | eGFR45mL/分/1.73m ² 以上60mL/分/1.73m ² 未満かつ尿蛋白+ |

Q CKD対策を実施した後、市民から反応はありましたか。

窪田さん：市民講座への参加をきっかけに、翌年の健診結果が改善したとの報告を頂きました。その方は継続的に健康相談に来られ、主治医の元に通いながら腎専門医の元にも定期的に通い、日常生活でも努力をし数値を維持しておられます。他にも同じように自ら進んで健康への取り組みをされている方がおられます。

Q CKD対策を始める際のアドバイスはありますか。

窪田さん：ふじみ野市では生活習慣病の重症化によるCKDが多くを占めるという現状認識のもと、広い視点を持って対策に取り組む必要がありました。まず自分たちの力量を高めること、そして培った力を持って、市民に自分の体の状態を自分で把握し、自ら健康に向けた行動を起こせるような意識付けを行うことを心掛けています。また現状認識からの問題意識と課題設定について、行政をはじめ医療機関や医師会の先生方、近隣の市町と共有すること、そして何より今、目の前にある課題を一つ一つクリアしていくという気持ちが大切です。

Q CKD対策に関しての振り返りや今後の目標、既に検討されていることがあれば教えてください。

窪田さん：実際に健康相談を行ってみて、医療費のことがクローズアップされることが多い透析導入ですが、それ以上に患者さんの心身への負担を感じる場面が多くありました。また結果として透析導入になった方ですが、コミュニケーションを重ねて信頼関係を築くことで、受診に繋げることができました。受診後、不安視していた血圧コントロールが改善したことで透析導入までの期間が延長できたのではないかと思います。

奥寺さん：個別の相談会には介入の余地がある方が多くおられます。コロナ禍で開催が難しい時期もありましたが、感染症対策に十分注意を払いながら再開を考えています。また予防的観点から、既に腎機能の数値が悪い方に加えて現時点では数値に問題がない方に向けた市民講座も開催したいと考えています。

窪田さん：親身になって協力してくださる医師会の先生方の存在は、非常に大きな推進力になっています。市民の健康を目指して、引き続き地域一丸となりCKD対策を進めていきたいと思っています。